



## 内田利弘研究グループ長「ホーマン賞」受賞

研究部門長 矢野雄策



### 【概要】

内田利弘物理探査研究グループ長が、電気・電磁探査法の研究において顕著な業績を挙げた研究者に授与されるホーマン賞を受賞した。受賞は2006年であり、授与式は2007年に行われた。ホーマン賞は、G. W. Hohmann記念基金(米国)が1997年から全世界の研究者を対象に授与している賞で、毎年テーマを決めて審査し1~2名に贈られている。2006年の賞は、電気・電磁探査法の地熱資源探査への適用に関する研究において、これまでの業績を高く評価された研究者2名に贈られた。

### 【内容】

内田グループ長は、これまで、電気・電磁探査のデータ解析法の開発と地熱資源探査等への適用に関する研究を続けてきた。受賞理由として、1)地熱地域における比抵抗構造の解釈に関する成果、2)地熱開発に貢献できるMT法、比抵抗法の2次元、3次元解析プログラムの開発と普及、3)日本および海外(インドネシア、フィリピン、韓国等)における地熱開発・地熱研究への協力、が挙げられている。1990年以降、継続して電磁探査関係の国際研究集会で研究成果を発表し、また、国際研究協力に貢献したことが評価された。右図は研究成果の一つである、鹿児島県大霧地熱地域におけるデータ解析事例を示す(Uchida, 4th International Symposium on 3D Electromagnetics, 2007)。

本件問い合わせ先: 内田利弘、e-mail: uchida-toshihiro@aist.go.jp、tel: 029-861-3840

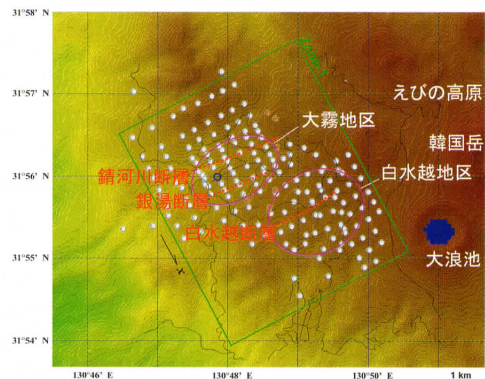


図1: 鹿児島県大霧地熱地域における電磁探査 (MT法) 測点 (白丸)  
3D MT Model (0.070 - 72 Hz)

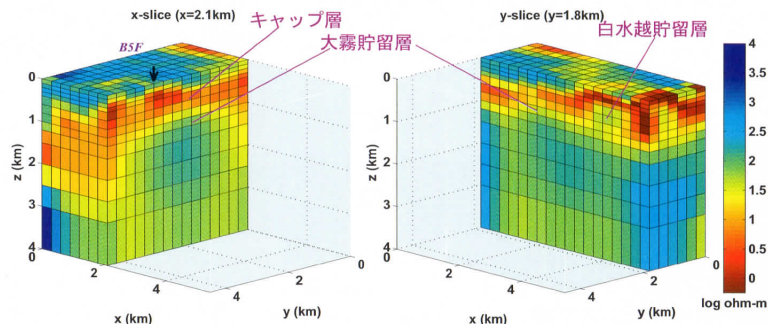


図2: 大霧地熱地域の3次元比抵抗モデル (南から俯瞰)。貯留層が存在する領域では、変質粘土に富むキャップ層が低比抵抗層として捉えられ、その下の貯留層は高比抵抗異常を示す。